

【ねがいましては】

平成21年10月26日

KYOWA SCHOOL

第228号

「遠ざかる学び」

ある日のそろばん授業のことです。普段プリント類が多い中で、ひとりひとりに問題集を渡しました。〇〇級と書いてあるので、子どもたちからすれば格差づけになる具体物です。誰もが隣を気にします。

当然渡されたものには問題があり、巻末には解答があります。

時々してしまう「心の授業」、新学期に多くすることになります。それだけ子どもたちの心は不安定になっています。「一番大切なものは家族だよ・・・精一杯に向かっていれば100点なんだからね・・・。」私の話に瞳を潤ませる子もいます。

何の不安もなく、マイペースでこなしていく子もいれば、1題1題、不安そうにこなしていく子もいます。

合うことは良い、間違えることは悪い。このルールは知らずのうちに子どもたちの心にインプットされます。

誰が言ったわけでもない、どこに書いてあるわけでもない、自然と入りこんでくるウイルスのようなものです。

Aちゃんは、たびたび瞳を潤ませる子の一人です。感受性が強いのですね。きっと優しさのかたまりさんになる子だと思います。こたえを書いて持ってきます。「うわー良くできたね。」・・・・・・

実はちらちらと、巻末の解答を見ているのを私は気付かぬように見ていました。私の心の中には怒りなどありません。「かわいそう」という気持ちで溢れます。誰もがかかってしまうその病にさせてしまうもの・・・・・・成績・評価です。

「Aちゃん、Aちゃんはね、病気にかかっているんだよ。ここにいる周りの子たちみんなが病気にかかっているんだよ。合うことは良くて、合わないことは悪いって、誰から教わったわけでもないのに、みんなその気持ちになるんだよ。先生はそんな病気にかかかったところを治してあげたいんだよ。」

Aちゃんの瞳からは大粒の涙がこぼれおちます。周りの子たちも皆、自分のことのように聞いています。

どうしようもない、自分をコントロールできない、このような子たちがたくさんいます。

以前にも紹介しましたが、フィンランドの小学校にはテストや成績がありません。「個」を尊重した授業が行われます。算数の計算問題を解いている時には、教室のいたるところに解答が置いてあります。彼らは思い思いに自分の行った問題が合っているか、解答を利用します。解答を写して持ってくる子など一人もいません。当たり前といえば当たり前、評価がないわけですから、そのようなことをしても何の意味もないことは、子どもたちが一番良く知っています。私はこれが真の学びではないかと考えます。

しかし、今の日本の子どもたちであれば、おそらく100%に近い子たちがちらっと答えを見、写すでしょう。写しても何の意味もないことが分かっているながら写す・・・・。これが心の病でなければいったい何なのでしょう。

このような行動に走らせてしまう原因とは・・・現存の教育制度そのものであると思っています。

テストや成績は、「合えば良い、合わなければ悪い」という単純な感覚を持たせてしまうと同時に、学びの原点である、「どうしてだろう」という考えようとする心を奪い取りやすくします。

ゲームでも勝ち負け、部活動でも勝ち負け、当然勉強の世界も勝ち負け・・・・自然とつながってしまいます。

中学校では順位づけされます。当然テストは100点満点中〇〇点・・・・。「勉強は競争」そんなこと当たり前でしょ、と、思われている方々がいらっしやいます。申し訳ありません。ご家族の皆さん方です。実はご家族の皆さんも、知らず知らずのうちに病（やまい）にかかっているのかもしれません。今こうして書いている私でさえも、中学生たち相手に定期テストが近づくと、「ここ絶対出るかもね、これだけはしっかり覚えておかないと、点数取れないかもね。」などと言っています。現実を目の当たりにした、どうしようもない会話なのかもしれません。

学びの本来の姿、間違えても「えーどうしてだろう、もう一回やってみよう。」「えー、どうなっているのだろう。」「じゃーこのようになると、こっちはどうなるの。」などと、深い探究心に溢れた感情を持ったものであるはず。「あれっ、また間違えちゃったー！これで10回目だよ。」と生徒、「えらいっ、そのチャレンジ精神が君の中に入り込んできたか、きっと大人になってから役に立つよ。」と先生。

「先生、この問題なんだけど、さっきから何回やっても正しい答えと1違うの、くやしい・・・・。」Aちゃんからそんな言葉が発せられたとしたら・・・・もうその日の夕ご飯はお赤飯です。

みんながみんな、本物の学びを手に入れることができれば・・・・。私の切望です。

私の理想の学校像、一クラス20人以下、成績なし、テストなし、一人ひとりが目的を持ち、お互いに助け合うところは助け合い、真の学びを身につけて行くこと。

既存の教育制度の中で、勉強に対し前向きな気持ちでいる子はどれほどいるのでしょうか。競争による前向きは真の勉強だとは思っていませんので、競争をはずしたところに、前向きな気持ちを持っている子・・・・。

ひょっとしたらこのちっぽけな教室にいるのかもしれませんが。そんな子たちであふれる教室にしたい。それが私の目標であり、夢なのです。みんなありがとうね。